

## 環境教育研修会B(今日的課題)が行なわれました

環境教育研修会B(今日的課題)が以下のように行なわれました。

### 1 開催の主旨

高度成長による物の豊かさの裏側には、常に資源の枯渇と、その利権を巡る競争と、自然へのダメージが引き換えとして存在します。未だに収束しない福島第1原発事故はその象徴であり、最悪の環境破壊をもたらしました。その結果、内部被曝という直接的な幼児への影響にも、長期にわたって留意していかざるを得なくなりました。こうした今、あらためて環境教育とは心の豊かさの再発見であり、命を慈しむ教育であると認識を新たにすることを感じます。この研修会では、子どもの命を第一とする教育者としての今後のあり方を、様々な分野から考え、広範な思考を学ぶきっかけとして位置づけ実施しました。

### 2 研修内容

第1回 テーマ 「新作『内部被曝を生き抜く』鑑賞会と鎌仲監督トークイベント」

内部被曝の時代を私たちはどうやって生き抜いていくのか？原発事故後の日本で命を守りながら前向きに生きていきたい。全ての人たちへ。専門家たちと福島からのメッセージ！（『内部被曝を生き抜く』HPより）

講師 映像作家 鎌仲ひとみ 監督

代表作『HIBAKUSHAー世界の終わりに』、『六ヶ所村ラブソディ』、『ミツバチの羽音と地球の回転』で2011年度全国映連賞 日本映画監督賞 作品ベスト10で3位受賞。全国で映画鑑賞会とトークイベントが連日のように開催されている。

日時 平成24年6月20日（水） 午後2時～5時

場所 アイリス愛知 コスモス（大会議室3B・4・5）

第2回 テーマ 「東日本大震災後の幼児教育 ～福島第1原発事故をどうとらえるか～」

幼児教育という視点で今回の震災と原発事故をどのようにとらえるのか？現代の幼児教育界をリードしてきた、名実ともに幼児教育界の第一人者の口から何が語られるのか…。必見の機会である。

講師 東京学芸大学名誉教授・元日本保育学会長 小川博久先生

日時 平成24年10月17日（水） 午後2時30分～4時30分

場所 名古屋ガーデンパレス 葵

### 第2回 受講者アンケート（研修報告にかえて）

① 園長・主任 40年

「情報に対してきちんと向き合う」。今まで自分がやっていなかったことだと思う。“子どもたちの未来を考えて”大切なことを教えられた。今まで気付かなかったところ、痛いところを突かれたこともあったが、日本のこと、教育のこと、熱い思いを、教えや他の先生に伝えなくてはいけないと思った。本当に新たな戦後だと思う。

② 園長・主任 担任年長 40 年

ノーマライゼーションの大原則を思い浮かべてお話を聞きました。心揺さぶられ、心温まるお話ありがとうございました。“子どもたちの人生に責任を持つこと”ここを忘れないことが大切であることを深く考えさせられました。

③ 園長・主任 38 年

小川先生のお話、情熱、とても良かったです。ありがとうございました。きちんと向き合っていくこと根っこの部分の大切さ、再確認しました。

④ 園長・主任 37 年

もう 30 年前のこと、先生が講演されたとき司会をさせていただきました。その頃以上に情熱をもって話された今日のお話に感動いたしました。“自分がどう生きたか”から“これから次世代の子どもたちのために生きることを大切に生きたい”という言葉は私も大切にしていきたいと思いました。ありがとうございました。

⑤ 園長・主任 34 年

目の前の問題から目を外さず、今できる最善のことを子どもとともに考えていきたい。20 年後に自分で判断できる大人であってほしいために感じる心や行動できる頭と体を育てていきたい。

⑥ 園長・主任 30 年

20 年後の子どもたちのことを私も考えたいと思った。そして 20 年後、名古屋はどうなっているのかとの問いを今まで考えたこともなかったので、福島ではないと安心しないで日本の将来として総合的に考えたいと思いました。とても良いお話を聞くことができました。ありがとうございました。

⑦ 園長・主任 26 年

何をやったかより、何が伝わっているのか？ 未来の子どもに伝えられるのか？ 未来の子どもが大地に立っているのが大切。OECD において幼児教育に何を予算化するのか？ 何が幼児教育にとって必要なのか？ 小川先生に聞きたい。

⑧ 園長・主任 25 年

教育に関わる仕事を続けていて子どもたちを育てる責任の重さについて変化を感じるようになっていました。教諭としてだけでなく 1 人の人間として自分のできること、やるべきことを一つ一つやっいていこうと改めて思いました。ありがとうございました。

⑨ 園長・主任 25 年

あらためて園で取り組むべきことについて考えさせられました。諦めずに少しずつできることから取り組んでいきたいと思います。数年前に職場を移り立場も変わったことで、自分の考えが古いのか…間違っているのか…と不安に思うことが多くありましたが今日の話聞いて少し安心しました。ありがとうございました。

⑩ 園長・主任 13 年

「臭い物に蓋をする」。まさにそのとおりだとお話を聞いて実感した。向き合う努力を

します。

⑪ 園長・主任 8年

子どもたちの未来を考える。この事については私自身も考えたことはありました。福島原発事故によって日本の経済発展のピリオドになってしまったということには納得させられました。確かに私たちの責任である。一番の被害者は子どもたちである。正しい情報に向き合い、不幸なこと辛いことに向き合い、確かな情報を子どもたちに伝えていく1必要があるということがよく分かりました。大切な幼児期の人間形成に関わっている私たち。私たちがいかに心して関わっていくかということを再確認しました。ありがとうございました。

⑫ 担任年少 12年

日々の生活の忙しさに流されてしまいそうになっている大切な部分を刺激されました。明日から子どもたちに向き合う自分が少しでも変わっていけると思います。ありがとうございました。

⑬ 年中担任 5年

今まで原発の話聞いても「自分がいま行っている保育への結びつきはあるのか？」と…一生懸命結び付けようと考えても結びつかないものでした。しかし今日の研修は原発一色ではなく、それを扱う人間自身の心の問題についての話を伺うことができました。幼児教育の中に原発を盛り込み話す（直結して考える）ではなく、そのための第1歩である幼児教育の在り方を再確認でき、とても近い距離で小川先生の話を感じることができました。学校教育、塾の話、社会のシステム…そんな話がとても印象深く残りました。ありのままを見て得るもの…現実と向き合う大切さや、好き嫌いは論議することは別。子どものことから職員間の問題に（あてはめてみました）まで私的に違った視点で参考させていただくお話がたくさん含まれていました。ありがとうございました。

⑭ 年少担任 5年

原発事故から1年以上が立ち我々大人たちがやらなくてはいけないことはたくさんあると改めて感じました。先生のお話の中で印象に残ったのは、福島の子どもは現在2つに分けられストレス以上のストレスを感じている子どもと、大人以上に大人顔負けの生き抜くパワーを持った子どもがいるということでした。私も保育者として子どもの強さや自立心を数多く見てきましたが、まだまだ甘く見ていたところがあったと気づかされました。もちろん大人の手助けがなければできないことは多いのですが、子どもたちの可能性は限界がないこと、原発によって子どもたちの未来が危ないことを通し、今の子どもたちが20年後に安心して暮らしていただけるよう少しでも1つでも多くのことに携わって行きたいと思いました。

⑮ その他 13年

自分の中で少しずつ風化し始めてきた3・11福島。今改めてもう一度振り返り考えていこうと思いました。子どもたちの無限のエネルギーにきちんと向き合っていてい

かなければいけないと思いました…同時に 20 年後の自分の姿がぶれないように努力していきたい。

⑩ 不明 不明

福島からのメッセージを忘れず…これからも色々な課題に対して逃げないで向き合っていきたいと思いました。子どもたちの未来に責任を持てる“人”でありたいと強く思いました。停電から学んだ家族の在り方。本当の幸せは何か…これからの課題です。

第3回 テーマ 「人は100Wで生きられるーだいち先生の自家発電30W生活」

講師 名古屋大学大学院環境学研究科准教授 高野 雅夫 先生

名古屋大学大学院環境学研究科設立に参加、同准助教授。さまざまな分野の専門家と協働して地下資源が枯渇した千年後でもやっつけられるような地球と社会のシステムをつくりだすための「千年持続型社会」を実現するための活動を、研究室にこもることなく、市民のひとりとして行政やNPOと協働して活動に参加。震災後は福島にも足を運び、子どもたちを内部被曝から守る活動にも参画している。

日時 平成24年12月12日(水) 午後2時30分～4時30分

場所 名古屋ガーデンパレス 鼓

第3回 受講者アンケート (研修報告にかえて)

①園長・とてもよかった

自然エネルギーにするために、社会のあり方、ライフスタイルを変えていく必要である考えは実際大切なことであると私自身も思います。以前より水力・風力・太陽光には、関心があり、なんとか「昔の暮らし」に戻って行きたい気持ちでいっぱいです。

以前、薪(間伐材)で、料理していたことを思い出します。いつか、夢ではない思いで、実現に少しでも近づけるように、又、今暖房のない生活を園でしていますが、二階、一階のクラスで暖かい太陽の光が大切。感謝の心で過ごしています。先生の言われた「ご縁」を頂く。仏教にも通ずるところありですね。ぼたもち今でもいただいています。

実現に向けての課題あり、さてどうしましょう。

②園長・とてもよかった・39年

今、TVでも自給について行われています。この先の日本を思うと、子ども達、若者たちに将来のエネルギービジョンについて考えさせられました。

③園長・よかった

④園長主任・とてもよかった

自然の力が生きていくのに必要であり、それを利用しお互いに上手に生きていく智恵をつけていきたい。そこに気づく感性や人と共に生きていく方法を見つけていこうとする子どもであり、大人になっていける保育、幼児教育を行いたい。

⑤園長主任・とてもよかった・約38年

幼児教育の先駆者であるルソーの“自然に帰れ!”という言葉を変えて思い起こしま

した。

⑥園長主任・よかった・約40年

3.11により、脱原発の必要性を思うと同時に、それにかわるエネルギーについて本当に考えていかなければならないと思いました。また、最後にお話をされた高野先生の人生観は、広い宗教的な(仏教的)真理のような気がして共感しました。やはり人の力では動かせない事に対して畏敬の念をもつことが小さい子ども達にも少しは必要だと思っています。ありがとうございました。

⑦園長主任・よかった・31年

我々の今の生活を改めて振り返り、これからどのように生活、過ごしていく事、等考えさせられました。

⑧園長主任・よかった・30年

今の社会は便利すぎて、手間暇かける事を忘れてしまっている様に思います。とても良いお話でした。

⑨園長主任・よかった・40年

3.11のあの不安感、そしてその後の困難。その解決がされていない現在。なのに原発は必要か必要ないかなどという議論がされていることが、不思議でなりません。「原発はやめる」ここからなぜ出発できないのか……。人間は愚かな面をどう乗り越えるのでしょうか。私は、約束を守らない大人の集まりが政治家のように思っています。しかし、その人達に国の方向や運営を任せていくのであるから、選挙を無視してはいけません。高野先生がどの方、どの正当に投票されるのか関心があります。

⑩園長主任・普通・40年

⑪主任・とてもよかった・約13年

自給自足生活に関することに関心があったので、とても面白かったです。

⑫主任・よかった・25年

自分が子どもの頃にしていた生活を、今は何一つ出来ておらず、当たり前になっていた子どもの頃の生活が、とても大切なものだったと改めて思いました。園に戻り、何か一つでも保育の中に取り入れられる様、努力したいです。

⑬主任・よかった・12年

環境から、今の世の中の現況、今後考えられる価値観の変化などをよく感じられることができました。自分が持っている価値観を子供達に押しつけることなく保育していか、よく自分の中で考えていきたいと思った。

⑭主任・？・8年

私自身不自由のない時代に生まれ育ち、当たり前のように電力を使用しています。福島原発事故以降、同じ日本での大きな出来事にショック・不安を感じつつも離れた愛知県に住んでいる事で、他人事のように思ってしまうところもありました。人は100Wで生きられるが、30Wでも生活できるという今日のお話を伺い、驚きつつも楽しく感じら

れるお話でもありました。私たち保育者の意識によって、子供達は感化されます。私たち自身の考え方も変えていく時だと思いました。

⑮年中担任・よかった・1年目

「人は100Wで生きられる」それを実践したい。又、している若者の話を聞いて良かった。地球の将来を考えると、今の豊かさを持続してゆくことが不可能であることがよく分かった。今の自分たちの暮らしをもう一度見直す機会が与えられたと思う。子どもの本質を見抜いたり気づいたりする大変さに気づかされた。

⑯フリー・？・10年

東日本大震災後、日本人は変わったと思う。運転していると道を譲ってくれる人が多くなったし、「ありがとう」とクラクションを鳴らしたりする人が増えたと思う。エレベーターで「何階ですか？」とスイッチを押してくれる人、次に来る人のために扉を開けておいてくれる人…少しだけ思いやりというものが増えた気がする。それはきっと皆が「何かしなくちゃ」と思っ一人一人が少しだけ変わったからだと思う。けれどあれだけの事故なのに、それだけしか変わっていないと言った方が良いのかもしれない。

⑰その他・とてもよかった・1年

わかりやすい資料、お話でとても楽しい時間でした。ありがとうございました。

⑱その他・とてもよかった・約13年

今回の研修が一番考えさせられる内容でした。ずっとお話を聞きながら、自分は何から変えていけるのだろうかとかと自問自答しながら聞いていました。孫の時代の生活を考えると今から自分の生活を変えていかないと大変なことになる。分かっているけれど、難しいですね。今の価値観を変える事。でもそうしないといけませんね。今の私に出来る事。「掃除はほうきが一番」これなら出来そうです。でもできるかな？自分の子ども時代は、まさに今の田舎暮らしと同じ生活でした。

⑲その他・よかった・5年

人口減少社会となった日本では、これまでのような拡大成長の意識ではなく、縮小を迫られる。放っておいても省エネ化が進むのでは？とも思うが、この縮小を退廃としないためにも、技術や手段は今後も洗練されていくべきだろう。千年持続可能な社会のための主体的な縮小「地下資源を使わない、生態系からエネルギーをもらう」という高野先生の提案は、合理的且つ魅力的なものに感じられたが、園でそのまま真似はできない。テレビを無くす、スクールバスを無くす、ガスストーブや扇風機を無くす、照明を無くす…選択的なエネルギー利用として、それぞれがどのくらい現実的なのか。ハードルは高い。一方、自然エネルギーの導入には魅力を感じているが、長期的・総合的に見て本当に合理的なのかどうかは未だに判断できない。

**研修会全3回を通して**

①残念ながら先代葬儀のため、全3回出席させていただくことが出来ませんでした。

次の機会に企画があれば、是非参加させていただきたく存じます。自然派生活大好き人間として、もう一度考えてみたいと思っています。

②1回の研修には欠席でしたので、2回目より参加させていただきました。

東北大地震にはびっくりさせられました。園でも少しでもお役にたてたらと思ひ参加させてもらいました。今各地で地震が起きたりしていますが、まずは子ども達のことが一番に考え、この先のことを心にとめていきたいと思っています。

③第1回の最後の質問の時間、鎌仲氏の熱意のあまりでしょうが、少し強くご意見を述べ、質問者に対してまた聞いている他の者にとっても後味の悪い思いを残したのが残念でした。他はとても大事な良い研修でした。ありがとうございました。

④子どもがまんなかプロジェクトでも子どもを守る為に必要な自然(海・川・里山)を守ることや原発問題も間接的に関わっていくべきだと思います。心や感性を育てる体験のプロジェクト作りをしていきたい。

⑧福島原発の災害を二度と子供達に味わわせてはならない。安全で元気に遊ぶ姿が見られる様にしてほしいと願います。

⑨「子どもを育てる」→何とかしようとしなない／「子どもが育つ」そこをみつけれることが必要とされる時代ですねー。

園内に寒い部屋が一つある。暖房は効きにくい。大人ははっきりいって寒い。しかし子どもは寒いとほとんど言わない。風邪もひかない。このことで(寒いことで)、園長である私が「子どもは体があったかで、あったかくなるのが得意だから大丈夫」といいましたらずっと信じている。

天気の良い日は、真南を向いている建物なので園庭がとても暖かい。「あったまりにいってくる」「部屋よりあったかいところがいっぱいあるよ」と言って自慢げに話している。面白いなあ子どもは…子どもの感性はすごいものがある。今、たくわん作りの準備をしている。干した大根がシワシワになっていくのを見て、毎日いろいろ発見してきます。

⑩地震国の日本がどうして原発を推進し、又は即座に止められないのか一般国民ならずとも幼児教育者が先頭にたって反対していかねばならないと思うが、そうならない現実には不安を感じる。

小川先生のお話が、深い保育研究を土台にした人生観を原発の問題と関わりながらお話されて、先生の生き方に共感すると共に、一層尊敬する気持ちになった。

⑬全3回を通して、世の中は大きく変わってきているということを感じた。しかし、毎日の生活では何も感じずに、子供達の前に立っている自分がある。感じられるアンテナを張っておきたい。

⑭講師の皆さんが言いたいことは「一人一人が変わろう!」ということだと思う。どうしたら皆が動くんだろう、変わるんだろう?先生方のお話を聞いて自分はなにが変わったのか、自分で消化したものはどう反映されているか…いろいろな中途半端なものが自分の中で宙ぶらりんなままで…取りあえず「前向きに行こう」とは思っていますが、ど

ここに何をシフトすればいいか言葉が詰まります。

⑱ 3回を通じて、毎回「それは良いな」という感想があって、自分にも何かできないかという思いが膨らんだ。そしてモヤモヤする。

研修参加の目的を「感化されること」だとすれば成功していると思うけれど、「行動すること」だとすると不十分だった。甘えた意見だとも思うけれど、具体的に「あなたにはこれができる」という道筋が示されると尚良い。しかし「これが正解」という答えがない問題。それも難しい。